

ニチコン (コード 6996)

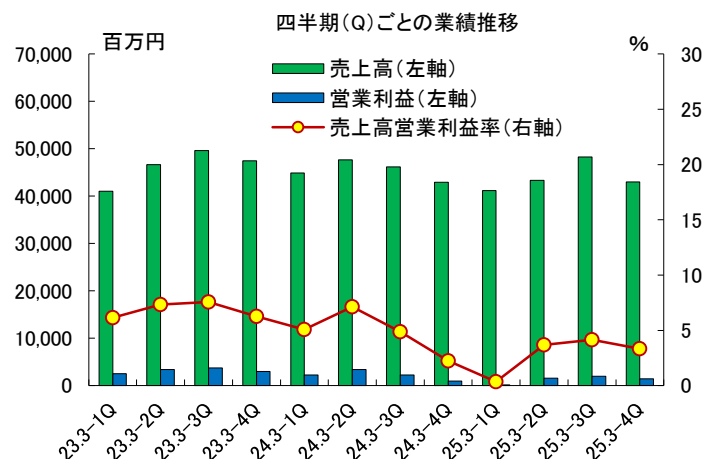
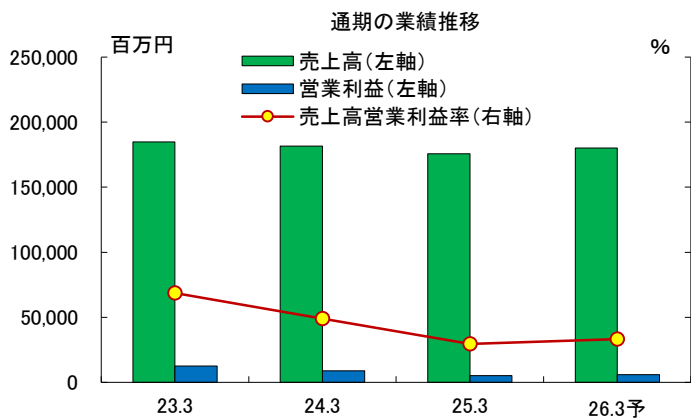
◆通期業績推移(連結) (26.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	184,725	12,676	114.2	30.0	9,186	▲8,121	5,435	25,068
24.3	181,643	8,904	120.6	33.0	16,321	▲12,734	▲571	29,387
25.3	175,751	5,203	86.0	予 35.0	18,346	▲8,361	▲14,319	25,519
26.3予	180,000	6,000	89.3	36.0	—	—	—	—

◆各決算期の中間期業績推移(連結) (26.3 予は会社側非開示のため表記しない)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	87,628	5,947	40.9	14.0	1,791	▲3,492	11,571	29,177
24.3	92,555	5,689	88.5	16.0	10,617	▲8,583	1,612	29,964
25.3	84,507	1,757	59.4	17.0	7,889	▲5,404	▲3,782	28,473

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年3月期の業績概況…25年3月期は、主力のアルミ電解コンデンサが軟調に推移し、売上高は前年比で3%減になった。利益面では、コストダウンなどのプラス要因を、減産損や資材・電力料・人件費・開発費の増加などのマイナス要因が上回り、営業利益は42%減となった。四半期の動きでは、第1四半期(24年4～6月)の落ち込みが大きく、第2～第3四半期(同年7～12月)には回復したものの、第4四半期(25年1～3月)は伸び悩み形となった。

当期の業績は、売上高1,757億5,100万円(24年3月期比3.2%減)、営業利益52億300万円(同41.6%減)、経常利益75億1,100万円(同34.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)58億7,700万円(同28.8%減)となった。

セグメント別の売上高は、コンデンサ事業991億6,800万円(24年3月期比6.8%減)、NECST事業765億8,300万円(同1.8%増)。コンデンサ事業の内訳は、アルミ電解コンデンサ793億3,600万円(同8.4%減)、フィルムコンデンサ198億3,100万円(同0.1%増)、NECST事業の内訳は、蓄電355億8,100万円(同4.3%増)、電源262億7,400万円(同10.7%増)など。また、セグメント別の営業利益は、コンデンサ事業15億5,100万円(同78.8%減)、NECST事業36億4,800万円(同130.5%増)となった。

コンデンサ事業において、アルミ電解コンデンサでは、ADAS(先進運転支援システム)や電動化ユニット向けの需要が拡大したものの、欧州を中心とした一部顧客での在庫調整や減産の局面が続く、自動車関連向けの販売は減少した。一方、生成AIサーバーなどデータセンター用途の需要が拡大したことから、情報通信関連向けの販売が伸長。また、産機インバータやパワーコ

ンディショナー及びエアコン用途の大型アルミ電解コンデンサは、一部の顧客で在庫消化が進み、需要の下げ止まりがみられた。

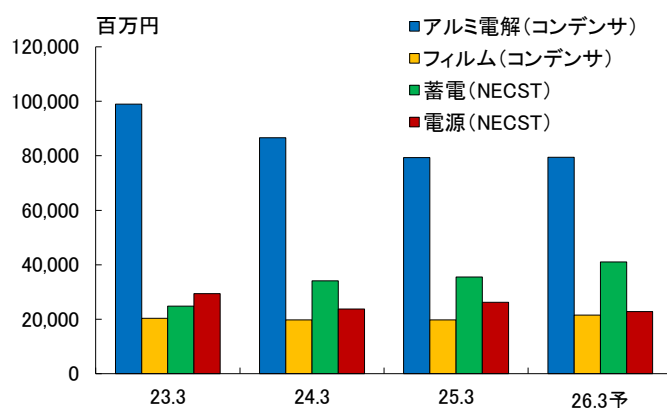
NECST 事業においては、補助金制度の交付条件の変更や EV 販売の低迷の影響によって V2H システムが軟調に推移した一方、家庭用蓄電システムが第 3 四半期（24 年 10～12 月）にかけて大きく伸長し、同事業の成長をけん引。急速充電器は EV 走行の環境整備を背景に同社製品の設置が進んでいるほか、研究用・医療用の大型特殊電源も堅調に推移した。

営業利益については、コストダウン（約 50 億円）、円安の影響（約 8 億円）などのプラス要因を、減価償却費（約 15 億円）、減産損（約 28 億円）、資材・エネルギー価格の上昇及び人件費・開発費の増加等コストアップ（約 53 億円）などのマイナス要因が上回り、減益になった。

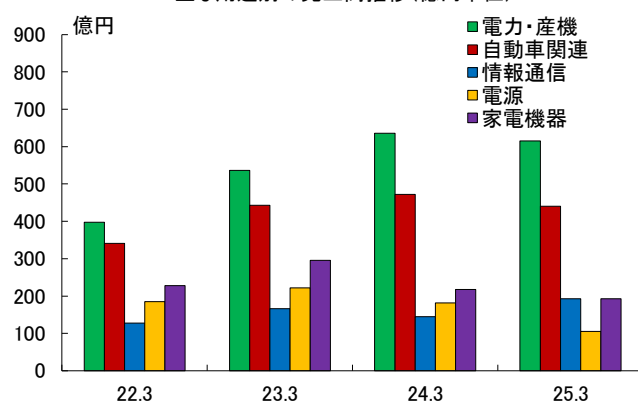
キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末における現金及び現金同等物残高は 255 億 1,900 万円（24 年 3 月期末比 13.2%減）となった。営業活動 CF は 183 億 4,600 万円の収入（24 年 3 月期比 12.4%増）で、税金等調整前当期純利益 84 億 6,500 万円（同 20.0%減）、減価償却費 84 億 6,500 万円（同 21.9%増）、棚卸資産の減少額 37 億 2,500 万円（同 84.5%増）などによる。投資活動 CF は 83 億 6,100 万円の支出（同 34.3%減）で、有形固定資産の取得による支出 106 億 5,000 万円（同 13.3%減）などによる。財務活動 CF は 143 億 1,900 万円の支出（同 2,407.7%増）で、短期借入金の純減額 73 億円（24 年 3 月期は 34 億円の純増）、転換社債型新株予約権付社債の償還による支出 120 億円（同無し）、長期借入れによる収入 120 億円（同無し）、長期借入金の返済による支出 25 億円（24 年 3 月期比 100.0%増）、配当金の支払額 23 億 2,600 万円（同 6.3%増）などによる。

26 年 3 月期の業績見通し…26 年 3 月期の通期業績については、売上高 1,800 億円（前期比 2.4%増）、営業利益 60 億円（同 15.3%増）、経常利益 70 億円（同 6.8%減）、当期純利益 60 億円（同 2.1%増）の見通し。セグメント別の売上高予想は、コンデンサ事業 1,010 億円（同 1.8%増）、NECST 事業 790 億円（同 3.2%増）で、コンデンサ事業の内訳は、アルミ電解コンデンサ 795 億円（同 0.2%増）、フィルムコンデンサ 215 億円（同 8.4%増）、NECST 事業の内訳は、蓄電 410 億円（同 15.2%増）、電源 228 億円（同 13.2%減）などとなっている。

主な機種別（カッコ内は事業名）の売上高推移



主な用途別の売上高推移(億円単位)



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。